

JTA Journal

ジャーナル

January 2023

No.31



年頭所感

会
長
田
中
徹
也

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては恙なく新しい年をお迎える事とお慶び申し上げます。また、平素からのご支援、ご協力に対して心より感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの経済的影響が徐々に低下してきた事や、半導体部品の供給が徐々に改善されてきた事などポジティブな動きがあった一方で、ロシアのウクライナ侵攻に伴うヨーロッパ経済の失速、ロックダウン政策による中国経済の減速、資源・エネルギー価格の上昇や物流費の高騰などのネガティブな動きもありました。また年間を通して円安が進行了した事も大きなインパクトとなりました。

日本機械工具工業会は2020年の8月を底に順調に右肩上がりの回復を続け、2022年4月から9月までの上半期累計生産金額実績は2,486億円(対前年同期比108%)、下半期の見込みは2,513億円(対前年同期比105%)、年度見通しは4,986億円(対前年比106%)となっております。年間見通しを予測した時点から上期は12億円程上振れましたので、年間では2018年度以来の5,000億円の舞台も視野に入ってきました。

昨年、正会員へ実施したアンケート「機械工具観測調査 DI値(Diffusion Index景気動向指数)」によりますと、

- ・2022年下期生産額は足元より増加予測で内需・外需共に先行きは良化する
- ・業種別では自動車・一般機械向けは増加傾向
- ・外需地域別ではアジア・北米は増加、欧州は減少

の結果となりました。

また、長期化する国際紛争とそれに起因する資源高騰などを考慮すると、経済環境の完全回復は2023年度以降になると予想する回答が多くを占めました。

今年の我々を取り巻く経済環境は、米国の利上げによる景気後退のリスクや半導体産業の減速が見られ始めた事、中国や欧州の経済回復にも時間を要するであろう事などから引き続き注視が必要です。工作機械の受注動向からみても設備投資は昨年より大きく伸びる可能性は高くはないと思われませんが、今年は投資された設備の稼働率の向上に伴って機械工具の需要はまだ成長の余地があると考えています。また、リアルな対面でのビジネスは昨年以上に活発に行われるでしょう。昨年11月に行われたJIMTOF2022での来場者数も11万人を突破し、2020年のオンライン開催時の5万人を大きく上回る結果となった事からもリアルでのコミュニケーションが、ものづくり産業にとって重要である事が再認識されました。

中長期的な視点で当工業会として取り組んでいくべき課題としては、

- ・自動車の電動化に伴う工具需要の減少が見込まれる事から会員各社が海外市場に展開する道筋(例えば海外展示会出展など)をサポートする仕組みを整える事
- ・ものづくりの現場から販売の現場まで、あらゆる場面でデジタル化が進展しているため会員各社が乗り遅れないように支援する事
- ・「カーボンニュートラル」を目指し脱炭素社会の実現も重要な社会的使命と認識し取り組んでいく事
- ・日本工作機械工業会、日本ロボット工業会、日本工作機器工業会、日本精密測定機器工業会、日本工作機械販売協会などのものづくり関連団体とのコラボレーションを加速する事であるとと考えています。

最後になりますが、日本経済の益々の発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして年初のご挨拶とさせていただきます。

(三菱マテリアル(株)執行役常務 加工事業カンパニープレジデント)



年頭所感

経済産業省製造産業局 産業機械課長

安田 篤

令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの世界的拡大から3年弱が経過しました。産業界の皆様には、テレワークの推進や時差出勤、職域接種によるワクチン接種の加速など、様々な形で御協力をいただき、改めて御礼申し上げます。

他方で、昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、米中対立、新型コロナウイルスによるパンデミックに引き続き、1990年以降拡大してきたグローバル化を逆回転させる歴史的な出来事となり、これを背景として、世界的なインフレの加速と急激な円安の進行など先行き不透明な状況が続いており、我が国の製造業は、半導体をはじめとした部素材の供給途絶やエネルギー価格の高騰など、様々な面で引き続き影響を受けておられると承知しています。我が国製造業の成長のために引き続き皆様と全力を尽くして進めてまいりたいと思います。

ロシア・ウクライナ情勢に加え、グローバルなサプライチェーンの脆弱性や国家、地域間の相互依存リスクが顕在化する中、昨年5月に成立した経済安全保障推進法に基づき、我が国では日本の経済構造の自立性の向上、技術の優位性、ひいては不可欠性の確保を目指し様々な施策に取り組んでおり、昨年、政府は広く国民生活・経済活動が依拠している必要不可欠な物資として、工作機械・産業用ロボット、半導体、蓄電池を含めた11物資を政令にて指定しております。

令和4年度第2次補正予算では、重要物資のサプライチェーンの強靱化を図るための事業を盛り込んでおり、特定重要物資の安定供給の確保に資する民間企業の設備投資や研究開発の取組を後押ししてまいります。

経済産業省では、2050年カーボンニュートラルという野心的な目標に向けて、脱炭素化に向けた長期にわたる研究開発・社会実装を行う企業等に対して、グリーンイノベーション基金にて、継続的な支援を行っており、今後も必要な支援を行うとともに、カーボンプライシングの制度の在り方や、特に脱炭素化が難しい(hard-to-abate)産業セクターも含め、規制・支援一体型の投資促進策を講じてまいります。昨年2月に発表したGXリーグ基本構想には、既に日本のCO₂排出量の4割以上を占める約600社の企業より賛同を頂いており、本年は、予見可能性を高め、企業がGXに向けた投資をしやすい環境作りに取り組んでまいります。

新型コロナウイルス拡大の影響もあり、リモートワークなど日常生活におけるデジタル化が幅広く浸透し、物流や小売業等でのロボット導入や、インフラ点検や物流、災害対応でのドローン活用など、新たな技術の活用場が拡大するなど、データ連携・利活用をはじめとした、デジタル化の促進や、その実現に必要な技術を持つ人材育成が重要となっております。

経済産業省としては、設備投資やIT導入支援を後押しすべく、ものづくり補助金などの生産性革命推進事業や、リスクリング等に取り組んでおります。

2年後に迫った2025年には、大阪・関西万博において「空飛ぶクルマ」の商用運行を開始することを目指し、政府では制度整備や研究開発を進めています。こうした取組などを通じて、経済産業省としては、未来の豊かなモビリティ社会を構築してまいります。

福島の復興は、継続して経済産業省の最重要課題です。経済産業省では、昨年末に官民連携の枠組みである「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」を立ち上げました。本ネットワークでは、産業界、自治体、政府関係機関等から広く参加を募り、水産物等の売り手と買い手を繋げることで、「三陸・常磐もの」の魅力を発信し、産業界での消費拡大を後押ししていますが、皆様におかれましても、ぜひネットワークへの積極的な協力・参加をお願いいたします。

日本の製造業は、急速に変化し続ける環境の中で、複雑で困難な課題にも多く直面しています。しかし、それらに果敢に取り組みイノベーションを続けることで、安定した成長を続けられると確信しております。引き続き、皆様の現場の生の声をお伺いし、それを産業政策に活かしてまいりたいと考えております。

本年が、皆様にとって素晴らしい1年となることを祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

2022年度秋季総会



挨拶 田中会長

10月20日東京マリオットホテルにて、会員63社の出席および経済産業省製造産業局産業機械課から安田篤課長、川内拓行課長補佐、蝶野雅敏係長にご臨席いただき、2022年度秋季総会が開催された。



来賓挨拶
経済産業省 川内課長補佐

まず田中会長が開会にあたり、「10月より日本機械工具工業会が一般社団法人化された。今回の法人化を機に日本の機械工具の発展に向けて、さらには世界のものづくりの変革、生産技術や革新の原動力となるべく一層の飛躍を遂げてまいりたいと決意を新たにしている。また、今年度の工業会の生産見通しは4,986億円(対前年同期比106%)で、コロナ禍以前の2019年度を上回り、回復基調にある。そして、今年は第31回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2022)が4年ぶりにリアル開催となり、コロナからの回復を後押しすることを期待している。半導体の供給不足はやや回復基調にあるといわれているが、一方で、中国のロックダウン政策の継続、ロシア・ウクライナ問題の長期化、エネルギー価格の上昇等、新たなリスクが発生している。また直近では為替相場が円安に大きく振れており、様々な状況変化についてしっかりウォッチしていきたい。」と挨拶された。



小谷総務委員長

続いて来賓挨拶として経済産業省の川内様より最近の政策動向についてお話いただいた。次に、田中会長が



上坂技術委員長



石田環境委員長

議長となり大石事務局長の議事進行のもと、次の4件の報告がなされた。

①新規入会会員の紹介：正会員1社(㈱クロイツ)の入会により、現在の会員数は正会員85社、賛助会員57社、合計142社となった。

②日本機械工具工業会賞・業界功労賞、技術功績賞、環境賞の発表

③各委員会活動報告：小谷総務委員長(三菱マテリアル㈱)、上坂技術委員長(住友電工ハードメタル㈱)、石田環境委員長(オーエスジー㈱)、浦本国際委員長(㈱不二越)より、それぞれの委員会活動報告が行なわれた。

④その他報告事項：2022年度改訂生産額見通しについて最後に北山副会長に総括をいただき、閉会となった。

続いて、2022年度日本機械工具工業会賞の表彰式が行なわれた。業界功労賞1名、技術功績賞4社、技術奨励賞4社、環境大賞1社、環境賞1社、環境特別賞2社が受賞され、受賞者を代表して増田照彦氏(元 ㈱MOLDINO)より謝辞をいただいた。

その後の懇親会は、田中会長、来賓の安田様によるご挨拶に続き、佐橋副会長の乾杯のご発声で開宴し、歓談の後、山本副会長の中締めによって閉会した。



総括 北山副会長



来賓挨拶
経済産業省 安田課長



乾杯 佐橋副会長



中締め 山本副会長



秋季総会の様子



懇親会の様子

2022年度 環境活動報告

環境委員会委員長 石田 修 (オーエスジー(株) 製造本部)
環境委員会副委員長/環境賞専門委員長 前村 紀裕 (三菱マテリアル(株) 加工事業カンパニー品質保証本部 筑波分室)
環境製品基準評価委員長 太田 吉保 (日本特殊陶業(株) ビジネスサポートカンパニー環境安全部 環境推進課)
化学物質規制対応WGリーダー 花田 昂迪 (住友電工ハードメタル(株) 生産技術開発部)

1. はじめに

2020年10月のカーボンニュートラル宣言から2年が経ちました。2021年11月エジプトで開催されたCOP27では深刻な被害を受けた途上国より、先進国からの支援要請が叫ばれました。温室効果ガス削減を加速する必要がある中、最近では、省エネルギー、再生可能エネルギー、CO₂回収、カーボンオフセット等、様々な具現化された事例を目にする機会も増しています。気候変動や海洋汚染などの環境問題は益々深刻な状況にあります。企業にとっても、ESG投資を始めとした企業の評価、価値に影響を与えるものとなり、この環境問題への取り組みは非常に重要な位置付けとなっています。

日本機械工具工業会 (JTA) としても環境改善の為に活動を加速する必要があります。環境自主行動指針に則って実施している環境調査も今年で8回目となりました。提出された環境調査票を厳正に評価し、各社の模範となる環境活動に対して環境大賞・環境賞・環境特別賞を選出し表彰を行っております。また環境調和製品認定制度を設け、環境負荷低減に貢献すると評価された新製品には、図1に示すJTAの認定マークの付与を行っています。このような活動を通じ地球環境の保全に貢献、さらに業界に影響する各種規制に対するアクションも行ってまいりました。これらの取り組みの一部をまとめましたので以下に報告いたします。

2. 報告

(1) 環境調査

2022年6月29日に正会員企業に向けて、工具業界の環境状況の把握および環境賞審査資料とすることを目的に、環境調査票と環境活動部門賞のご提出をお願いしました。

①環境調査票回答状況

■集計期間：2021年4月1日～2022年3月31日

■回答企業数：45社 (回答提出率：54%)

回答提出率は、昨年51%に対して54%となり、一昨年の48%より2年連続して増加しております。新型コロナウイルスの影響により一時減少しましたが、その後増加へ転じております。

②調査内容

調査内容は、大きく分けて2つあり、環境マネジメント (化学物質管理、環境負荷低減含む) に関するものと、温暖化対策・廃棄物対策に関する改善活動です。調査項目は表1に示す全33項目で、環境マネジメントが17項目で48点、改

善活動が16項目で92点の合計140点満点となっています。

③調査結果

調査結果を図2に示します。65%の会員企業で、昨年よりも総合得点が上がって (良化して) おり、環境マネジメントにおきましても、昨年と同等もしくは得点が上がって (良化して) いる会員企業が79%となっております。また景気変動の影響もあり、生産高原単位での評価項目が多い改善活動の得点も、上がって (良化して) いる会員企業が65%と継続的な改善が進んでいることが伺えます。

昨年同様に、ご提出会員企業には、評価項目別点数をフィードバックいたします。その一例を図3に示します。評価項目毎の点数分布と自社の位置、自社の得点率推移、二酸化炭素排出量推移をお知らせすることにより、工業会でのポジションや改善活動の成果が分かり、活動の強化に役立てていただければと考えております。

(2) 環境賞の表彰と環境活動交流発表会

会員企業から提出された調査表の内容を厳正に評価し、各企業の模範となる活動に対して、第8回環境大賞、環境賞及び特別賞を委員会で選考しました。これらを理事会に推薦、承認されたものが10月20日、2022年度秋季総会で発表されました (受賞会社については、JTA HPもしくはJTA ジャーナル第30号をご覧ください)。

各賞の受賞内容につきましては、具体的な活動事例の共有を目的として開催している環境活動交流発表会にて発表、併せて各賞の受賞式を実施しております。2022年度交流会については、新型コロナウイルスの影響を考慮し、開催方式も含め現在3月開催にて検討中でございます。これまでご参加が難しかった多くの会員企業の皆様にもご参加頂けますよう、実施要項を取りまとめ、決定し次第会員企業へご連絡いたしますので、ご協力お願いいたします。

(3) 環境調和製品の認定状況

2022年度の環境調和製品の認定状況は22件 (11月10日現在) で、昨年同時期と比較し認定件数は大きく増加している状況です。要因としては、認定プロセスの効率化・スピードアップにより、申請から認定までの期間が短縮出来たことが挙げられます。これはここ数年の制度改善活動による効果によるところが大きく、具体的には、各社申請資料の事前閲覧制度化による論点の絞り込み、判定時に判断のヒントとなる過去事例の判断結果をまとめた「覚書シート」の充実・定期更新です。今年度は新たに認定ラベルの改善にも取り組んでおり、会員各社が多くの認定品を

図1 環境調和製品認定マーク



表1 環境調査項目

環境マネジメント

環境マネジメント	1	ISO14001の認証又はそれに準じる環境審査・認証	28点
	2	環境方針又はそれに準じる方針	
	3	環境推進組織	
	4	社員への環境教育	
	5	環境事故（緊急事態）への対応訓練	
	6	環境目標設定（エネルギー・廃棄物）	
	7	グリーン調達規程が有る	
	8	環境に配慮した事務用品を使用している	
	9	商社および原料採掘鉱山へ調達基準を伝達している	
	10	下請け会社、主要納入業者に環境教育実施している	
	11	下請け会社、主要納入業者は、環境に配慮した製造を実施している	
管 化学物質 理 物質	12	欧州化学物質規制（例：RoHS物質）の規制物質が製品及びその包装材料に最大許容濃度（閾値）を超えて含まれていない	8点
	13	PCB（ポリ塩化ビフェニル）処理	
低 環境負荷 減	14	環境にやさしい（配慮した）製品の開発に取り組んでいるか	12点
	15	社内の環境改善活動に取り組んでいるか	
	16	地域（地球環境を含む）の環境改善活動に取り組んでいるか（社会貢献活動）	
	17	生物多様性環境対応	

小計 48点

改善活動

温暖化対策	18	電気使用量（生産高原単位）が前年度より2%以上削減	48点
	19	配送業者へ委託の場合：製品を配送する委託配送業者のISO14001（又はそれに準ずる活動実施）取得率 自社（グループ企業含む）配送の場合：社有車の低公害車の割合が50%以上、または超低公害車の割合が20%以上	
	20	対前年度比、エネルギー（CO ₂ 換算）削減率	
	21	対前年度比、生産高原単位のCO ₂ 削減率	
	22	水使用量（生産高原単位）が前年度より2%以上削減された	
廃棄物	23	総廃棄物量（生産高原単位）が前年度より2%以上削減された	29点
	24	総廃棄物量に占める埋め立て廃棄物の量は3%以内である	
	25	廃製品を市中から回収している	
	26	製品の包装容器はリサイクル可能で、包装材料に塩化ビニルを含まない	
	27	包装材、包装容器はリサイクル率、リデュース率、リユース率は総計10%を越えている	
28	再資源化（リサイクル）率		
加算点	29	二酸化炭素排出量（生産高原単位）は、自ら定める基準年から年平均0.5%以上削減された	15点
	30	生産高原単位でCO ₂ が直近3年推移、連続で削減	
	31	ゼロエミッションの継続（99%以上）	
	32	再資源化（リサイクル）伸び率	
減点	33	罰則等に抵触する場合	-50点

小計 92点
合計 140点

図2 環境調査結果（2021年度比2022年度）

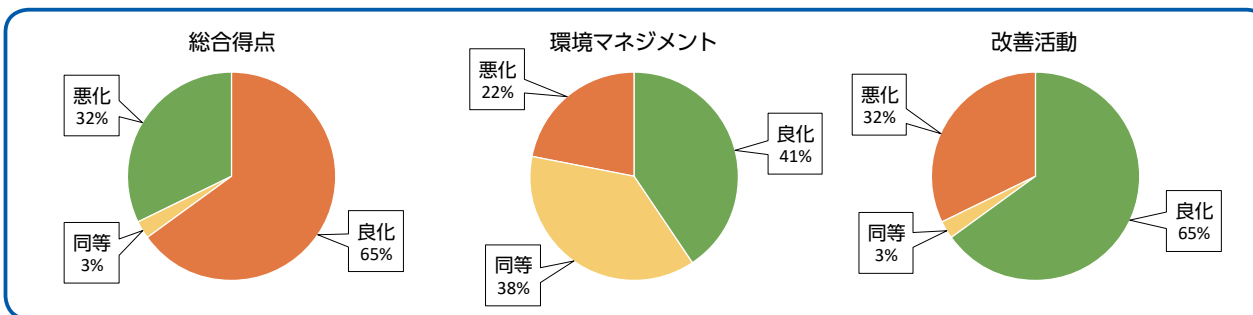
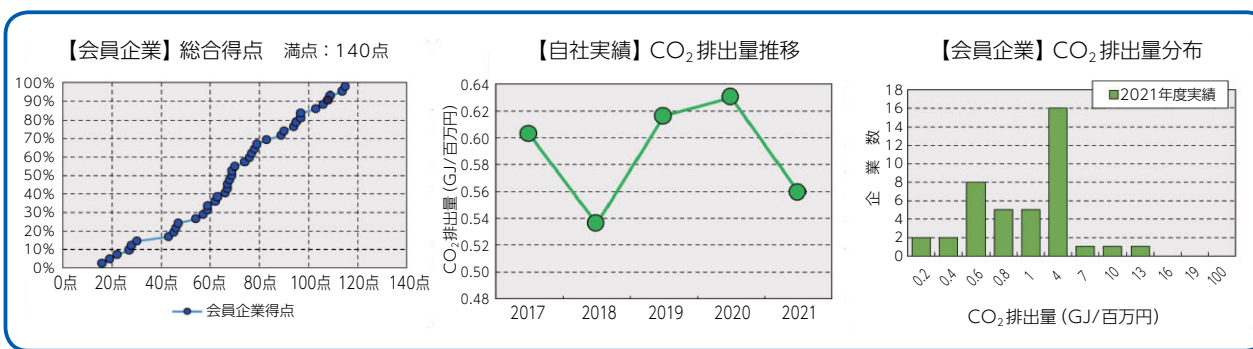


図3 フィードバック例



取得・発信することで業界の活性化につながる様、活動を継続していきます。

(4) 化学物質規制等への対応

化学物質規制対象物質の情報収集を行ない、不必要な規制回避の為に業界として協力して取り組むことで会員企業にとって有益となるように活動しています。今年度はJIS改訂に対応した工具のSDSひな型を日本語版、英語版共に完成させJTA HPに掲載致しました※会員のみアクセス可能（JTA HP → 委員会 → 環境委員会 → 環境関連情報 → 会員PW入力 → GHS対応SDS）。今後は、社会的ニーズ

が増えている工具1ヶ当たり製造時のCO₂排出量の問い合わせに関する情報共有や、算出方法の統一に関しても進めて参ります。

3. 最後に

環境活動のスピードを速める必要のある中、会員企業の皆様に役立つ情報をタイムリーに提供していくことも我々の役割と認識しています。JTA HPの中に、環境委員会の専用ページがあります。環境情報を随時更新して参りますので、ぜひご高覧下さい。

JIMTOF2022 (第31回日本国際工作機械見本市)

11月8日(火)～13日(日)の6日間、東京ビッグサイトにてJIMTOF2022が開催された。前回のJIMTOF2020は新型コロナウイルス感染状況を受けて初のオンライン開催となり、今回は4年ぶりのリアル開催となった。出展は国内外併せて809社5,446小間、(一社)日本機械工具工業会としては、会員71社429小間で出展した。来場者数は海外来場者含めて6日間で114,158人(重複なし)。

次回JIMTOF2024は2024年11月5日(火)～10日(日)東京ビッグサイトにて開催予定。

■ JIMTOF2022 来場者数

(単位：人)

日付	天候	来場者数 ※重複なし	来場者数 ※重複あり
11/ 8 (火)	晴	17,225 (内海外 1,547)	17,225 (内海外 1,547)
11/ 9 (水)	晴	18,594 (内海外 1,010)	23,143 (内海外 1,949)
11/10 (木)	晴	22,486 (内海外 986)	27,900 (内海外 2,052)
11/11 (金)	晴	29,962 (内海外 664)	38,104 (内海外 1,594)
11/12 (土)	晴	20,388 (内海外 664)	26,962 (内海外 917)
11/13 (日)	曇後雨	5,503 (内海外 78)	8,614 (内海外 309)
合計		114,158 (内海外 4,686)	141,948 (内海外 8,368)

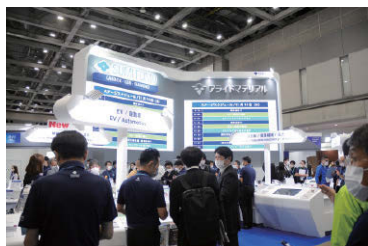
※重複なし：開催期間中の重複なし 同人物が複数日に渡って来場した場合も1名とカウント

※重複あり：開催期間中の重複あり 当日の重複は除く

日本機械工具工業会会員出展社ブース



(株)アサヒ工具製作所



(株)アライドマテリアル



(株)イワタツール



(株)栄工舎



エフ・ピー・ツール(株)



(株)エムエーツール



エリコンジャパン(株)



オーエスジエー(株)



岡崎精工(株)



(株)小笠原プレジジョンラボラトリー



兼房(株)



京セラ(株)



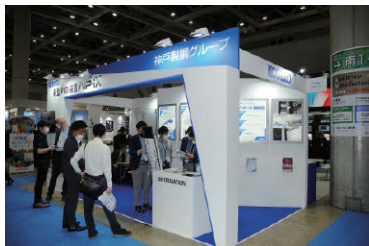
(株)共立合金製作所



協和精工(株)



グーリングジャパン(株)



(株)神戸製鋼所



(株)サイトウ製作所



サンアロイ工業(株)



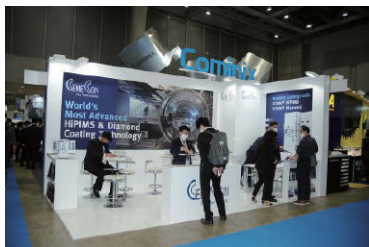
(株)三和製作所



新明和工業(株)



住友電気工業(株)



CemeCon(株)



ダイジェット工業(株)



大洋ツール(株)



(有)辰野目立加工所



(株)田野井製作所



(株)タンガロイ



(株)中京



(株)東鋼



(株)東陽



(株)ナチツールエンジニアリング



日進工具(株)



(株)ニチアロイ



日本特殊合金(株)



日本特殊陶業(株)



(株)ノトアロイ



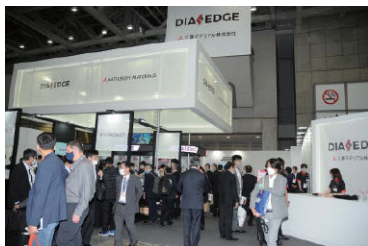
(株)不二越



富士精工(株)



富士ダイス(株)



三菱マテリアル(株)



(株)MOLDINO



矢野金属(株)



(株)彌満和製作所



ユニオンツール(株)



菱高精機(株)



アंकマシンツールズジャパン(株)



イスカールジャパン(株)



(株)宇都宮製作所



AFCジャパン(株)



エムゲ・フランケン(株)



(株)オンワード技研



グリーンツール(株)



KFカーバイドジャパン(株)



ケナメタルジャパン(株)



SEAVAC(株)



CIMSOURCE Japan(株)



CYカーバイドジャパン(株)



(株)真誠



(株)セラティジットジャパン



創新日本(株)



テゲツックジャパン(株)



日本コーティングセンター(株)



日本ウォルフラム(株)



日本金鷲硬質合金(株)



ノガ・ウォーターズ(株)



HORN(株)



本多プラス(株)



(株)松岡カッター製作所



マンヨーツール(株)



(有)鈴峰



YG-1ジャパン(株)



工業会ブース

手筒花火の伝統

ソリッドエンドミル専門委員長 長坂 康弘

夏の風物詩と言えば花火(かなり季節はずれな話ですみません)。みなさん花火と言えばどんな花火をイメージされますか? 夜空に開く大輪の花をイメージされる方が多いでしょうか。

JR飯田線東新町駅のほど近く、私の生まれ故郷、そして今も暮らしている愛知県新城市平井に鎮座する八幡神社では、毎年10月に秋の例大祭が行われています。八幡神社の例大祭は、お神輿、山車の行進などがありますが、なんといっても見どころは奉納煙火です。奉納煙火には手筒、大筒、立物花火があります。立物花火は市無形文化財に指定され、江戸時代の中期ころから始まったとされる伝統ある花火です。

さて、今回私が紹介させていただくのが手筒花火です。手筒花火は愛知県東三河地区が発祥の地と言われており、私が住む町の八幡神社においても長きにわたって引き継がれています。そして、コロナ禍で2年間例大祭が中止となっていました。ようやく今年、規模を縮小しつつも手筒花火の奉納のみ執り行うことができました。

この地域の手筒花火の特徴は手づくりというところです。自分で容器をつくり自分で火薬を詰め自分で揚げる。すべては自己責任。そのため手筒花火への愛着も強くなります。手筒花火づくりは竹を取る作業から始まります。手筒花火にとって竹は命です。真円で真っすぐ、肉厚の竹を選びのこぎりで切り出していきます。次に噴出口(以下「鏡」という)となる一番上の節だけ残し、節を抜



竹取り



竹磨き

いて磨いていきます。火薬を詰めるため節が残ってはいけません。鉄やすりを使って節以外の部分に傷をつけないように少しずつ丁寧に磨いて節を落としていきます。節をきれいに落としたら、竹の中全体を紙やすりで仕上げます。竹の内側には縦筋やシワがあります。火薬を均一に詰めるためにはこれらもきれいに磨

いておく必要があります。また、竹の強度を上げるため縄巻きをします。私の町内では、まずは米袋を巻き、その上にゴザ、そして細縄、太縄の順に巻いていきます。最後に鏡を赤土で補強して容器の完成です。ここまでの作業を約1ヶ月間、毎晩町内の集会場に集まって行います。



縄巻き



火薬詰め

完成した容器に火薬を詰めるのは祭礼の前夜。事前に講習を受け臨時作業員という立場で最後の火薬詰め作業を行います。この辺りから一気に緊張感が高まります。強さの異なる火薬を決められた量、順番を守って詰めていきます。込め棒で火薬を詰める感触、そして音だけを頼りに詰めていく作業は、まさに経験だけがものをいう世界です。最後に跳ね粉と言われる火薬を入れ、新聞紙、赤土で火薬を止め、鏡に口を切って手筒花火の完成です。

そして今年、私も4年ぶりとなる手筒花火の奉納を行いました。我が町内も若者が少なく、揚げ手がいなくて泣々揚げることになったというのが実際のところではありますが、久しぶりに感じた緊張感、そして達成感。また手筒の魅力に取りつかれてしまったかもしれません。若者が増えるその時まで、手筒花火の伝統を守り、受け継いでいきたいと思っています。

(オーエスジー(株) デザインセンターミリンググループ チームリーダー)



放揚 ※手筒花火をあげること

◆会社紹介と工場PR

TANOIは創業以来一貫して
タップ・ダイス専門メーカー
として2022年11月3日で99
周年を迎え100年目に突入い
たしました。



製品

社長の田野井優美は5代目の社長とし
て2013年に就任しました。女性社長の
強みを活かして、細やかな気付きで改善
活動や環境整備を進め、お客様に一番に
思い出していただける会社づくりに邁進
しております。



社長:田野井優美

当社はねじ加工に特化したメーカーとして、ノウハウを
蓄積しながら技術を継承してまいりました。いままで培っ
てきたそれらを製品開発へ活かし、お客様の加工現場でお
役立ちできることを常に心掛けております。

加工トラブルが多いとされるタッピング工程において、
安心してタップをご使用いただくために、ご相談に対して
原因を特定してから処方(対策品の提案)する「ドクター
セールス」と呼ばれる社内活動を進めております。

工場は埼玉県白岡市と宮城県刈田郡七ヶ宿しちかしょくにあり、埼玉
県の工場では超硬材タップとフラットダイスの製造、宮城
県の工場ではハイス材タップの製造を行っております。

今後も当社オリジナル・オンリーワン製品を生み出し、
100年200年とご支持いただける企業を目指し社員一同
一丸となって取り組んでまいります。

◆歴史・ご当地

工場がある宮城県刈田郡七ヶ宿は、宮城県の最南西部に
位置し、福島・山形の両県と境界を接する周囲91kmにお
よぶ自然環境に恵まれた町です。江戸時代、羽州街道と奥
州街道を繋ぐ道に七つの宿場があった事から、この街道は
「七ヶ宿街道」と称されており、町名の由来になっています。

1991年10月には「七ヶ宿ダム」が完成し、仙台市を含む



「水の郷」七ヶ宿



七ヶ宿ダム

県民183万人の水がめを擁する水源の町でもあり、「水の郷」
といわれています。かつては宿場町として栄えた場所で、
江戸時代からの歴史を感じさせる素晴らしい史跡や名所を
訪れることもできます。

また、最寄りの新幹線駅でもある白石にはご当地品として
「うーめん」というものがあります。今から400年ほど前、
伊達藩白石城下に鈴木味右衛門という人がおり、父が胃を
病んで床に伏し、親思いの味右衛門は、何か良い食事療法
はないかと八方手を尽くしたところ、たまたま旅の僧から油
を一切使わない麺の製法を耳にし、これを作って温め父に
勧めたところ、胃病は日ならずして快方に向かい、やがて全
快したということです。油を使わないで作る麺は胃にやさしく
消化も良いので回復を早めたのでしょう。白石城の片倉小
十郎公は、前記の孝行話の「温かい思いやりの心」を称え、
その麺を「温麺うーめん」と名付け、地場産品として奨励しました。

もう一つの工場は埼玉県東部に位置する白岡市にござい
ます。特産品の「梨」は県内有数の埼玉梨の主産地であり、
4月中旬には市内の梨園が
梨の花で白一色となりま
す。全都市住みよさランキ
ングでは過去に埼玉県内
で1位になるなど魅力ある町
です。



特産品の梨

◆イベント わらじで歩こう七ヶ宿 (毎年8月下旬)

参勤交代路として栄えた七ヶ宿街道を、町民の方が手作
りしたわらじを履いて、スキー場から役場までの約12km
を歩く「わらじで歩こう七ヶ宿」。江戸時代の関所や茶屋を
再現したアトラクション、真っ白な蕎麦の花、夏の涼やかな
川の音を肌で感じながら、道中を思い思いの足取りでのん
びり歩く夏の思い出にぴったりのイベントです。県外からの
参加者も多く、七ヶ宿町の名物イベントです。



「わらじで歩こう七ヶ宿」イベントの様子

